

平成25年度第2回山内図書館利用者フォーラム 会議録

1. 日 時 平成26年1月27日（金） 14:00～16:00
2. 場 所 山内図書館集会室
3. 出席者 利用者フォーラムメンバー
千葉委員（代表）、貞廣委員（副代表）、片瀬委員、大西委員、平原委員、
山田委員、岡嶋委員、下田委員

事務局

柴田課長、荻野係長（有隣堂本部）

小島副部長、嘉藤係長（三洋装備）

古川館長、能川副館長、味元（山内図書館）

4. 案 件

- (1) 山内図書館平成24年度評価
- (2) 山内図書館中間期評価
- (3) 読書活動の推進に関する条例
- (4) 山内図書館の事業取り組み（平成22年度4月～25年度12月）
- (5) 山内図書館平成26年度の事業展開
- (6) その他

5. 概 要

(1) 山内図書館の平成24年度評価について（古川館長）

①横浜市山内図書館 指定管理者平成24年度管理業務評価の説明

②質疑応答

Q. 査定項目の一つ「図書館運営に関する全般的な事項」が昨年度の「A」から「B」に下がったのは、個人情報保護の点で問題があったことが起因しているのか。

A. 利用者には謝罪し、受け入れていただいた。しかし、有隣堂グループはプライバシーマークを取得しており、評価の前にセルフモニタリングを行い、自らの評価を「C」とした。そのことも影響したと思われる。

(2) 山内図書館中間期評価についての説明（古川館長）

①付帯意見を踏まえた上での中間期評価の意見及び指摘事項、評価の報告

②質疑応答

Q. 「中間期報告書」の「付帯意見を視座とした意見及び指摘事項」の中で、指定管理者の引き継ぎについて触れられているが、また白紙からの入札になるのか。利用者としては一番これを恐れている。せっかく5年かけて築きあげてきた信頼関係が崩れてしまう。初年度は傍で見えていても、ほんとうに大変だった。お話し一つをとっても、全然スタイルが違い、お互いに探り合っているようなところがあったが、今は信頼して行える関係になっている。これが5年でぷつり切れてしまうのは、何ともいえない。先行業者としてのメリットはないのか。

A. 基幹的なサービスはどこが引き継いでも変わらないだろうが、この5年間に有隣堂が蓄積してきたものは、指定管理者が変わっても、ある程度継承されると思われます。

Q. 次期、業者が変わった場合、ノウハウの引き継ぎは考えているのか。

A. 有隣堂でなくなった場合、山内堂は撤退。恐らくその他の面でも、培ったノウハウは引き継がれないのではないかと。新しい業者は独自のスタイルを打ち出すだろうから、逆に引き継ぎたいとは思わないだろう。現時点では、横浜市が指定管理をどうするのかの話が出ていない。

③メンバーからの意見

- ・指定管理者が特色を出せば出すほど、引き継ぎが難しい。業者が変わるとガラリと変わってしまう。利用者としては、せっかくなじんだサービスがぷつりと切られてしまうのは、遺憾に思う。
- ・民間委託で5年という期限が切れ、評価を受けなければならない立場であるが故、本来の図書館業務以外のところでの労力も強いられていると思う。ここまで労力をかけて積み上げてきたものが、次回の入札の際に活かされないのは、あまりにももったいない。

(3) 読書活動の推進に関する条例についての説明 (古川館長)

①条例の概要、及び本年4月以降、区役所等と連携して、読書活動の推進に取り組んでいくことを説明。

*質疑応答は、次項目の(4)と合わせて行う

(4) 山内図書館の事業取り組みについての説明 (古川館長)

①平成22年度4月から平成25年度までに取り組んだ主な事業について説明

②質疑応答

Q. 読書条例に基づいて、イベントを行う計画はあるのか。

A. 条例に基づいて、イベントを行っていくことになると思われる。

Q. 今、学校図書館ではそれぞれの学校図書ボランティアが個々で図書室の充実を図

っているが、今後は図書館も関わってくれるようになるのか。

A. そういうこともありえると思う。今までバラバラに読書活動に携わっていたところが、区のイニシアティブのもと有機的につながり、今まで協力できなかった部分でも協力できるようになり、読書活動を推進していくことになるのではないかと考えている。

Q. たとえば読書活動推進計画に基づいて、民間レベルでイベントを企画した場合、山内図書館で相談にのってもらえるのか。

A. 具体化されていないが、平成26年11月までに計画を策定することになっている。その過程で、そういう話もでてくるのではないだろうか。

(5) 山内図書館平成26年度の事業展開（古川館長説明）

①平成26年度の事業案について、質疑応答およびフリートークスタイルで意見を募る。

<質疑応答>

Q. 平成25年度の夏から託児サービスを始めたが、需要はどうか。

A. 木曜と土曜日に行っているが木曜日の利用が多い。託児サービスについては来年度も継続を予定している。

Q. お子さんを預かっている間、読み聞かせなどは行っているのか。

A. 託児サービス用の本を用意し、読み聞かせを行っている。

Q. 子育てが終わってしまい、子どもと読書相談の関係がよく分からない。図書館に来た子どもたちの読書相談はどのように行っているのか。

A. 展示コーナーで季節や年齢に合った本を紹介している。また、カウンターに「山内よろず相談処」を設け、相談を受けた場合、職員が親や子どもにインタビューして読書量を把握し、その子にふさわしいと思われる本の紹介をしている。

<メンバーからのご意見>

- これまでにもいろいろなことをやっている。しかも枠組みがあるので、新しい事業をとくと難しいですね。
- ボランティアをやっているが、読める字を増やしたり、学校に入ったとき、授業に遅れないようにという知育面からの相談が多い。決してよいことだとは思はないが、知育面からのアプローチはニーズがあるように思われる。
- 幼児教育が盛んだがそれには疑問を感じる。好きな本を見つけるまでは、のんびり本を読んでもよいのではないか。お母さんにもっと肩の力を抜いてもよいというような読書案内講座があってもよい。
- 小学校低学年はどういう本を読んだらよいか、親も子もわからず、迷っている。子供向けに週末に読書相談にのる読書コンシェルジュを設けてはどうか。

- ・キッズクラブは敷居が高い。小学2～3年生を対象に読書案内講座なども行ってはどうか。
- ・「おはなしごっこ012」の趣旨は、絵本を親子で読む楽しさ、お話を通して子どもと触れ合う楽しさを実際に体験することで、読み聞かせやお話を家庭でもよりよく実践していただくことである。自分のお子さんとどう触れ合えばよいかわからないお母さんも、6回連続講座の中で子どもと触れ合うことで、講座が終了するころには子どもとコミュニケーションがとれるようになり、参加者同士で育児の相談をするようになっている。終了後も付き合いが続き、またこの講座を経て、ボランティアとして活動するようになった人も育っている。職員のフォローもよい。欠席者への連絡のほか、2年前に参加した第1期生の子どもの名前も憶えていて、図書館でその子を見かけると「〇〇ちゃん」と呼びかけている。子どもにとって、図書館がより身近な場として感じられるのではないだろうか。
- ・平成26年度は青葉区制20周年にあたる。山内図書館のアーカイブ「青葉区風景写真データベース」を活用して、パネル展やイベントを行ってはどうか。
- ・区制20周年の節目に当たるので、この町を受け継いでいく次世代の子どもたちに向けた郷土の歴史を教える講座の開催はどうか。
- ・横浜市や東急、住民などが連携してたまプラーザ地区では、「次世代郊外まちづくりプロジェクト」が進行している。タブレットを持って町を歩くと、その場所の情報を提供することも考えられている。山内図書館も「青葉区風景写真データベース」の写真を提供するなどできるのではないか。また、このAR技術を使った町歩きツアーなどを行ってはどうか。
- ・武蔵野プレイスという複合施設の見学に行った。最近の傾向として、複合的な機能を持った施設が増えているが、山内図書館も新しい機能性を入れていくことは可能か。
- ・Tポイントカードを図書館カードにするのは賛同できない。
- ・Tポイントカード（図書館カード）では、読書のプライバシーが心配。本来の図書館の機能の重要な部分は地味なものだと思う。CCC（株）は派手なもので目をひいているが、核心のサービスが得られないと意味がないのではないか。
- ・読書推進条例に沿って、現在バラバラの図書館、地区センター、学校図書館、コミュニティハウスのネットワークをつくっていただけると利用者としては嬉しい。情報をネットワークして、本をやりとりできる体制を整備して欲しい。
- ・ただし、ネットワークにはメリットとデメリットはある。新刊本など、その地区センターの棚に並びにくくなる。
- ・地区センターごとに図書館の貸し出しカードが違って不便であると、利用者からよく言われる。
- ・土・日曜日の開館時間が18時に延びると嬉しい。

6. その他

平成26年度の利用者フォーラム委員継続について

来年も引き続き委員の継続を依頼、承諾を得る。

配布資料 会議次第、横浜市山内図書館 指定管理者平成24年度管理業務評価及び指定管理中間期の総合的評価報告書、横浜市民読書活動推進計画（素案）についてのご意見募集のパンフレット、山内図書館の事業取り組み（平成22年度4月～25年度12月）